せいよ 議会だより

議会は西予市を変えられるか

創刊号

平成16年７月28日発行

リレー議員紹介 **今抱負を語る** 14P

やるぞ3つの委員会 **委員会レポート** 12P

8人が一般質問 **傍聴席は満員御礼** 6P

市長所信表明 **質疑は夏真っ盛り** 4P

市民の皆様から **請願・陳情を審査** 3P

正副議長 **就任のあいさつ** 2P



Seiyo Assembly

明浜町は太陽がいっぱい

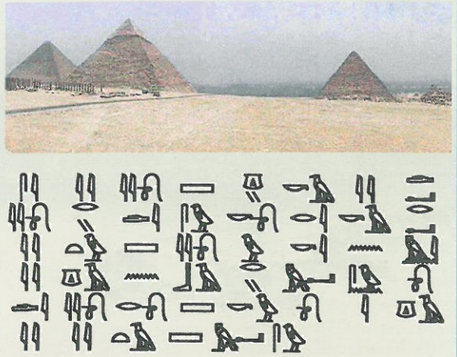
発行／西予市議会　編集／議会だより編集委員会　発行責任者／沖野健三議長　〒797-0015 西予市宇和町卯之町三丁目434-1　TEL0894-62-0486

わが町の取って置きのスポット



水平線に沈む明浜町の夕陽

古代エジプト文字でご挨拶



注釈）西予市議会だよりですこれから一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します

がんばる編集員



市議会では、議会のことを少しでも広く市民の皆様に理解して頂く為に、この度第一回目の定例会にあわせて、創刊号を発行することと致しました。議会便りの目指すべきものは、少しでも早く、読みやすく、しかも解りやすい「議会だより」を目指して、編集に取り組んで参りたいと考えております。市民の皆様も是非議会便りに対して、積極的なご意見、ご批判を戴きますようお願い致します。

まだまだ在るぞ 地域に残る 小さな行事



初夏を彩る恒例の王子神社（卯之町）の夏祭りが今年もにぎやかに行われます。その前夜祭が卯之町中心商店街の主催で盛大に開催されました。児童、生徒の踊りから、ビヤガーデンまで大勢の人で遅くまで賑わいました。（平成16年７月９日）

編集後記

西予市がスタートしてすでに4か月が過ぎました。少しずつ西予市民としての実感が沸いてき始めました。今年は暦の上で閏年。8月13日からアテネでオリンピックが開催されます。世界の熱いドラマが始まります。5町の合併は、国の三位一体の改革と一緒になって、西予市の当初予算は大変厳しい予算となりましたが、今こそ市民が一丸となって知恵を出し合い、この厳しさに立ち向かって参りたいと思います。議会だよりも、一生懸命リアルな情報をお送り致しますので、皆様の意見をお待ち致しております。

編集委員

◎委員長　元親　孝志
○副委員長　松山　清
委　員　松島　義幸
　　河野　作生
　　亀井　秀男
　　鍵原　芳和
　　菊地ミスギ
　　大竹　忠盛

6月定例会

（内過年度分30億円）5100万円

4月1日、多くの夢と期待を担って、新生西予市がスタート致しました。西予市議会は2回の臨時議会において、議会の構成、議会運営の在り方を協議し、また行政運営における、それぞれの人事を承認致しました。6月23日からは15日間の会期で、第1回定例会が開催されました。定例会の主な内容は、請負契約の承認、条例制定の議決、市長の予算説明、所信表明に対する質疑、一般質問、各常任委員会付託案件、（平成16年度一般会計予算、特別会計予算、公営企業会計予算、請願・陳情）の審査を行いました。審査結果につきましては、3ページ以降のとおりです。



中心宇和は歴史と文化の町

初代西予市の正副議長 まちづくりと議会の抱負を語る



沖野　健三 議長

市民の皆様には、平素から本市行政並びに市議会に対しまして、温かいご理解とご協力を頂き、誠に有難うございます。

市議会では、5月31日臨時議会におきまして議会構成の選出を行い、私たち両名が西予市議会初代正副議長という重責を担うこととなりました。今後は、開かれた議会、市民から信頼される議会、また皆様にとって身近な議会にするために、粉骨砕身努力を致す所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。

さて4月1日に誕生致しました西予市は、山あり、海あり、平野あり、また山の幸・海の幸がふんだんにある、すばらしい町であります。しかし、依然として厳しい経済状況の中、行財政改革の推進や地方分権への対応、また少子高齢化対策や地域産業活性化への取り組みなど、重要な行政課題が山積しております。

市議会と致しましても、諸問題解決のために、31名の議員が融和の精神を忘れず、一致団結して全力で取り組んでいく所存であります。そして合併して良かったといわれるようにすることが、我々議員の責務だと思っております。どうか市民の皆様におかれましては、今後とも温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、就任のごあいさつとさせていただきます。



山本　昭義 副議長

三位一体の改革って一体なんだ

一般会計293億

平成16年度の当初予算は、国の予算編成方針が、これまでの「改革断行予算」という基本路線を継続されたことによって、地方財政計画も、徹底した歳出の見直しが行われ、地方交付税は4年連続の大幅な減少となりました。また、「三位一体の改革」による影響で、12億4千万円余りの減額が見込まれ、かってない厳しい予算となりました。収支の均衡を図るため、財政調整基金等の取り崩しで、収入不足を補填しました。

主な事業紹介

◇行政事務委託
4千9百70万円
1地区あたり4万8千円、1戸当り1千5百50円の合計額を委託料として支給されます。

◇笠置峠古墳石室複製
1千2百34万3千円
古代ロマンの里構想事業の一環です。

◇出産祝い金
2千2百50万円
新生児一人につき10万円を支給されます。

◇在宅寝たきり老人等介護手当
6千5百92万5千円
介護度4級と5級の寝たきり老人の介護者に対して月額2万5千円を支給されます。

◇健康保養地構想事業
5億1千97万2千円

◇多目的交流促進施設
3億千69万6千円
旧城川町に、周辺住民の健康増進、保養、療養を専門的に行うことが出来る健康づくりの拠点整備を行うもの。平成16年から平成17年度までの継続事業です。

◇野村町堆肥センター
6億1千39万1千円
本年11月から本施行となる「家畜排泄物法」に対応するため、資源循環型持続的農業を形成するための堆肥センター建設費

◇塩風呂はま湯
改修工事
2千3百70万円
公衆浴場設置等の基準等に関する条例の一部改正により、現在の打たせ湯を薬草風呂に、寝湯をジェットとバイブロに改修するものです。

◇野村町多目的会館
8億9千96万9千円
旧野村町に百50年の歴史を誇る「乙亥大相撲」を実施する、多目的な用途を兼ね備えた、常設施設を設置するもの。平成15年からの継続事業です。

◇海の駅本館事業
1億7千9百90万円
旧三瓶町が買収を行った「旧ホテル朝屋」を、町づくりの情報拠点及び、道の駅機能を持った施設に整備を行います。

◇道の駅新設事業
1千4百万円

◇高速道路周辺整備事業
1億8千2百8万5千円

◇定住促進住宅事業
6千70万1千円

◇消防団備品等整備
2千28万8千円

◇校内LAN整備
8千万円

◇魚成小建築設計委託
2千9百15万円



笠置峠古墳

請願・陳情

□西予市の工事に関する政治倫理条例制定を求める請願について

審査結果…継続審査

■非核平和自治体宣言をもとめる陳情について

■市道知野―龍徳線の「龍徳橋」架け替え、並びに道路改良を求める陳情について

■地方分権を確立するための、真の三位一体改革の実現を求める、意見書の提出を求める陳情について

■義務教育費国庫負担制度の、堅持に関する意見書の提出について

審査結果…採択

以上4陳情についてはいずれも採択すべきものとした。尚意見書の提出については、各関係機関にそれぞれ提出を致しました。

所信を語る



町づくりを語る西予市長

市長の基本スタンス

□夢のある町を作ること
□隅々まで行き渡る行政を行うこと
□行政の情報を住民と共に共有すること

この基本スタンスを持ちながら西予市の行政諸課題に取り組んで参りたいと存じます。今後予想される地方分権の推進の中で、国、県の権限委譲や職員の質的向上を生かし、住民に対する要望に応えてゆかなければなりません。私たちは新しい市を創造する気概が大切であります。都市的要素をふんだんに盛り込んだ、市として認知される市の創造を目指し、市としての一体感を早く作る必要があります。市民が一つになる努力を誘発しながら一体感を醸成することに努めて参ります。それぞれの地域の特性を把握し、行政課題に取り組んでいく必要があります。私はグローバルに考えてローカルに実践する方針であります。

西予市の実践的課題とは

★市の基幹産業である農林水産業の基盤づくり
★女性の声を市政に反映するシステムの構築
★スポーツ立市を目指しスポーツを通じ交流人口の増加を推進
★高齢者福祉の推進
★市内の教育の平準化と生き生きとした逞しい子供の育成

平成16年度 予算編成

新市施行後最初の予算であるという、事の重大性を重く受け止め、大極的な視野に立って、市民4万7千人の将来を見据えた、新しいまちづくりの基礎予算と致しました。国の方針がこれまでの改革断行予算という、基本路線を継続させたことによって、地方財政計画も徹底した歳出の見直しが行われ、地方交付税は4年連続の大幅な減少となっており、これに加え三位一体改革による影響で、当市は12億4千万円余りが減額となり、これは予想をはるかに超えた、かってない厳しい財政状況の中での予算編成でしたが、西予市の未来あるまちを築き、市民の負託に応えることが私の責務であり、削るものは削り、やるべき事はやるという強い信念を持って予算編成に力を注いで参りました。どうか議員の皆さんを始め、市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。主要施策として以下の4点を重点的に取り組んで参ります。


西予市の町づくりに取り組む職員

西予市長

5町の平準化に向け、4つのテーマを掲げて特徴ある町作りを目指します。

●第1点目の目標

【城川町】
「潤いと安らぎのある暮らし創造のまちづくり」我が村は美しくを理念に奥伊予としてのイメージを定着させ、城川町そのものが安らぎの里として認知され、健康保養地中核施設整備に本格的に着手し、都市との交流を促進し、西予市の新しい健康づくりの拠点を整備します。

【野村町】
「地域文化あふれる生活と雰囲気のまちづくり」。乙亥大相撲という伝統文化を生かした町づくりであり、乙亥文化による交流を核として、中心市街地への新しい概念の複合施設へ、乙亥の里を完成させ、個性的な商業形成を図ります。

【宇和町】
「古代ロマンの里、歴史と文化の共生のまちづくり」。弥生古墳遺跡を核とした古代ロマンの里づくりで、周辺の里山と一体的に整備し、安らぎや癒しを提供すると共に、生涯学習の場としても活用します。

【明浜町】
「海を生かした魅力ある交流のまちづくり」をテーマとした、シーサイド・サンパークの整備により、交流人口も増加傾向にあり、地域活性化に弾みをつけており、今後とも既存の施設と、新たな施設を一体化し、特徴ある運営を展開して参ります。

【三瓶町】
「全国の海、山、町とのネットワークのまちづくり」。中心部、沿岸部を海との交流拠点として、三瓶ネットワーク海の駅の整備を図り、情報、物流、環境、観光の拠点として整備し活性化を目指します。


ライトアップされた宇和町並み

●第2点目の目標

地域のイメージアップと活性化を図ります。西予市は県内では2番目の面積規模を有し、四国カルストから宇和海まで、多様な地域資源を持つ地域の利点を行かし、地域の連携と活力を高める施策に挑みます。旧町で築き守り育てて来た貴重な文化、イベント、産業等これらの融合や拡大を目指して、地域のイメージと付加価値を高めます

●第3点目の目標

市としての機能を十分に発揮し行政サービスに努めて参ります。行政区域の拡大により、公共施設の有効利用と活動内容、指導内容の充実が図られると共に、城川、明浜地区には第一段階の救急医療体制が整い、より一層安全、安心して暮らせるサービスが提供できる事になりました。従来の行政サービス以上の高いサービスが提供できるよう職員共々努めて参ります。

●第4点目の目標

抜本的な行財政改革に取り組み、硬直化した財政の建て直しを図ります。今日の財政状況は、国、地方において未曾有の財政危機状況にあり、特に地方自治体は三位一体の改革による影響や、少子高齢化の進行により、今後ますます厳しさは増大し財政硬直化が一段と進むものと判断しております。今回の合併では、従来実施していた行政サービスを高い水準に合わせたこと、総合支所方式を導入したこと等により、合併のメリットといわれている、行政のスリム化が図れず、人件費の削減、事務事業経費等の削減には至っていない現状であります。加えて平成16年度末地方債残高は、普通会計債で約3百23億円に達する見込みであり、今後増発する見込みの合併特例債を合わせると、大変憂慮すべき財政状況になっています。今後の取り組みとしては、人件費の抑制、事務的経費の削減、補助金のあり方について、精査、合併特例債の慎重な運用等、行財政改革を早急に断行し、後世に禍根を残す事態だけは、絶対に回避しなければならないと強く念じておりますので、議員各位、市民の皆さまもこの窮状をご理解頂き、ご協力を賜りたいと思います。

要望いっぱい・課題山積

一般質問は熱気でいっぱい



影響あるか三位一体の改革

現状だと財政破綻は明白

元親　孝志　議員

問　地方分権の必要性については、言う必要はない。しかしこれら一連の改革は余りにも唐突過ぎて、しかも充分な説明も無いままに、改革だけが進んでいるような気がする。政府の「三位一体の改革」で西予市の行財政運営に今後どのような影響があるのか伺いたい。

総務部長　三位一体の改革の理念は、地方自治体の本来の姿を実現するものと理解していたが、蓋を開けてみますと、三位はばらばらにして、それを一刀両断に切り捨てる内容のものでありました。各自治体は、平成16年度予算編成で大幅な財源不足に直面しました。当市の影響についても、12億4千万円の収入源になります。三位一体上の問題はクリアできても、本質的な財政上の問題が残っていますので、今後抜本的な行財政改革を進め、健全財政を構築していかなければなりません。

今こそ新産業おこしの検討を

問　長引く景気の低迷に伴い、地域経済に大きな陰りが出始めている。一方都会においても、企業の構造変化に伴い、雇用の受け皿がなくなった。今こそ地方が都会に変って、雇用の受け皿になる時代ではないかと思うが市長はどのように考えているのか伺いたい。

市長　西予市の特性を生かした多品目産地づくりや、特産品の開発は私の公約の一つであり、後継者の確保や雇用の場として、働く環境作りに努めたい。西予市に根付く商工業などの開発の素地はまだ充分あると思っています。地場産業の振興とともに、これを基礎とした産業の高度化、活性化を推進してまいります。



介護保険団塊の世代はどうなる

問　介護保険制度も4年目にして、早くも抜本的改革が予定されている。問題は負担と給付のバランスをどう維持するかである。将来は施設でも在宅でもない「小規模多機能サービス拠点」が理想と思うが市長の考えを伺いたい。

市長　「小規模多機能サービス拠点」の考えは、私もまったく考えの一致するところであります。今後積極的に進めて参りたいと思っています。

8 議員市政を問う

傍聴席は満員御礼



議場は熱気でいっぱい



女性政策室の早期実現を

委員会にも女性の登用を

大竹　忠盛　議員

問　女性は、細かなことに気づかれる洞察力や豊かな感性があり、これらを生かせる町づくりが求められている。市長の政策でもある、「女性政策室」の早期実現を望むものであるがその見通しについて伺いたい。

市長　行政の各種委員会でも、女性の登用を積極的に行い、女性の豊かな感性が生かせる、環境づくりに努めたい。西予市における真の男女共同参画型社会を構築して行くために、新たな視点で女性政策の要となる女性政策室を行政組織に加えたい。



田之筋公民館で「安心の家」
実技講習を受けているボランティア
と施設協会職員。参加者は27名。

産業戦略会議って何

問　活力ある西予市を作るためには、様々な課題の克服も必要であるが、この西予の恵まれた自然を生かした産業活性化の為の対策を、出来るだけ早く立ち上げるべきだと考える。その為には、たとえば「産業おこし対策室」を設置し、行・産・学が一体となった、積極的な町おこしを進めるべきだと思うが、市長の考えを伺いたい。

市長　産業戦略会議を創設して、新しい産業おこしを目指したい。対策室の設置については今後の課題としたい。

福祉のモデル小規模多機能施設

問　これからの地域福祉を考える視点として、行政と地域が一体となって支えあう、地域福祉の在り方が求められる。田之筋地区で間もなくスタートする「安心の家」（小規模多機能施設）を行政としてもしっかり支援し、これからの地域福祉のモデルとすべきだと考えるが、その指針と対応について伺いたい。

市長　この施設は介護保険対象の、デイサービス10人、介護保険外の宿泊サービス定員2人を主なサービスとして事業を行う。地域ぐるみで高齢者の方々を支えることを基本とし、地域と行政が一体となり、高齢者の方の身近な場所で、サービス提供が必要で、地域福祉のモデルとしてスタートしたい。将来は学校区毎に設置できれば理想と考えている。

選挙公約どう実行する



田中　剛 議員

任期中に具現化する

市長　公約は選挙スローガンとして、抽象的な言葉を連ねた自己欺瞞的なものとするものではなく、自分の任期中に具現化するものとして、市民との約束として発信したものであります。

税金滞納者の対応は

問　新市発足直後の今納税の義務観念、自治意識を喚起して公共心を盛り上げ、執行者は一度課税した税金は、時間をかけても納めてもらうと言う強い姿勢で、公平な負担で公平な受益を図る気概を持って、対応すべきと考えるが市長の考えを伺いたい。

総務部長　納税者へ税の理解と納得が得られるよう、広報紙等に掲載して参ります。滞納者への訪問催告等を実施し、滞納処分については職員の研修を図り、不公平が生じないよう対応して参ります。

公共下水受益者負担どうする

問　市長は選挙に当たって、12の政策を公約に掲げて当選されました。当選後は全力を尽くして公約を実行すると、有権者と契約を結んだものであり、市長がどのような手法で公約を実行するか期待をして見守っているところである。市長の所信を伺いたい。



公共下水の料金はいつ調整できる

勤務評定はどうする

問　地公法第40条による「任命権者は、職員の執務について、定期的に勤務成績の評定を行い、その評定の結果に応じた措置を講じなければならない」と定めてありますが、本庁の場合どのように実施されるのか伺いたい。

総務部長　今後西予市においては、実施すべきと考えている。

問　野村処理区は一戸当たり15万円、宇和処理区は一戸当たり20万円と負担金に差があり、使用料金においても20㎥使用の場合、620円の違いがでるが、使用開始前に調整すべきではないか。

建設部長　住民周知の額が2つの処理区でそれぞれ異なっております。国の指導もあり、同一市内では早い時期での一本化が望ましく、各処理区の財政計画を十分に検討し、関係住民の理解を得られるようにします。

循環型企業の推進と支援を



浅野　豊重 議員

積極的に森林整備をする

問　今からの企業や事業は使い捨て単発型でなく、循環拡張型でなければならない。一つの事業をすることで多くの問題を改善することが大事である。その最たるものが森林整備であり、人工林の除間伐である。森林整備により、山崩れ、洪水防止、水源確保、水質浄化、また木の葉の堆積により良質の微生物を川や海に運び、漁場の再生を図る。豊漁になれば山にも安値で水産物が送られ、まさに循環型である。市としてはこのような事業には思い切った支援をすべきと思うが理事者の考えを伺いたい。

産業部長　環境に優しい木材利用の促進を図りつつ、積極的に補助事業を導入し計画的に森林整備を支援していきます。

道路愛護の精神を

問　西予市の顔である宇和～野村間の県道は目を覆いたくなるような惨状である。環境問題が叫ばれ、公共物を大切にとの教育をしても、あの状態を見れば理解に苦しむ。県の責任は承知であるが、使用するのは市民であり、行政と市民が一体となり環境整備の日をもうけてはどうか。道路美化について考えを伺いたい。



草伸び放題の県道宇和～野村線

建設部長　国県道の管理は、県の責任で行っています。市道は旧町で対応しています。国県道については早速当局に要望して対処します。市道については清掃補助金を一部計上しているが、基本的に西予市を愛するボランティア活動に期待しています。

転職・失業対策は

問　建設関係者は、公共事業の削減で悲鳴を上げている。行政は事業誘致に全力を尽くすべきである。また企業誘致にはいろいろな角度から当たるべきである。転職や失業者の対応対策は考えているのか伺いたい。

産業部長　国の三位一体の改革で、国庫補助負担金・地方交付税の削減は当初の予想を遥かに上回り財源不足である。必然的に歳出削減はしなければならないが、市として緊急地域雇用対策事業等計画しています。まだ転職や失業対策は制度化していません。今後関係機関と十分協議の上で市としての対応を考えたい。

問　生涯スポーツは、社交的な面、仲間づくりの面でも極めて有効なものであり、青少年の健全育成、高齢者の社会に出ていく橋渡しの役割など様々なメリットがある。生涯スポーツの推進、支援をすることは教育行政の重要な課題でもある。スポーツの楽しさがあふれる町、子供から高齢者まで市民の誰もが、地域で気軽にスポーツを楽しめる社会の実現を目指して生涯スポーツの振興に取り組んではどうかと思うが理事者の考えを伺いたい。



スポーツを楽しむ西予市民の皆さん

教育長

生涯スポーツの推進についての考え方、あるいは推進方策について、愛媛県がスポーツ立県を提唱し、また平成29年開催予定の愛媛国体に向けての取り組みの強化がなされている中、西予市においてもスポーツ活動の育成に務めてまいります。組織、指導体制の整備と共に、後継者の育成に努めるなど、生涯スポーツ推進のための社会体育行政を現在展開させて頂いております。

体育施設の使用料の減免を



岡山　清秋 議員

10月１日から使用料は有料

問　西予市体育施設の使用料は、市及び各総合支所主催等一部を除き、体育協会加盟なしの団体、文化協会、社会福祉協議会、保健所、生活改善グループ等には有料になっている。利用者応分の負担を強いる制度は、施設を管理する側に立った考えであり、誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを楽しむことができる環境作りと、相反していると考える。すべて近隣町村に習い、画一的な行政施策を行うのではなく、地域の特性にあった、特色ある市政の推進が求められるが理事者の考えを伺いたい。

教育長　使用料について合併協議会の中で、5町の調整案を承認して頂いたところであります。それに基づき条例で規定しております。運用面については、無料から有料にする一定の期間免除するということで、半年の間は特別減免の無料期間としまして、10月1日から条例に基づき使用料を頂くことでお願いを致しております。このことに対する周知の方法は、それぞれの施設にチラシあるいは掲示を致す予定です。



庁舎建設いつから検討

来年度から特別委員会で

松山　清　議員

問　西予市庁舎の建設は、行政のスリム化・合理化を目指すためには早急に取り組まなければならない課題と考えられるが、市民の考えはどうか。庁舎建設のためには、候補地の選定から始まり膨大な作業量があるが、本庁方式への切替えも視野に入れて、出来るだけ早く事業に取り組んで頂きたいが考えを伺いたい。

市長　庁舎建設は、市にとって大事業であり、建築の緊急性や市民の理解、財政状況などを考慮しながら慎重に検討して参りたい。市庁舎を作る段階で、総合支所方式から本庁方式への変更も考えなければならない。本年度は西予市の基礎を作る段階であると判断している。来年度から特別委員会などを立ち上げる時期と考えています。

合併記念イベントを

問　5町が合併して西予市が誕生したので、それを象徴するイベントを実施すべきではないか。産業文化祭などを西予市市民祭のような、一体感が感じられるものにできるのではないか伺いたい。

産業部長　西予市が一つにまとまったイベントの開催や産業文化祭、体育祭のあり方については、新市の融和と合わせて今後検討していきます。

例規集はホームページで

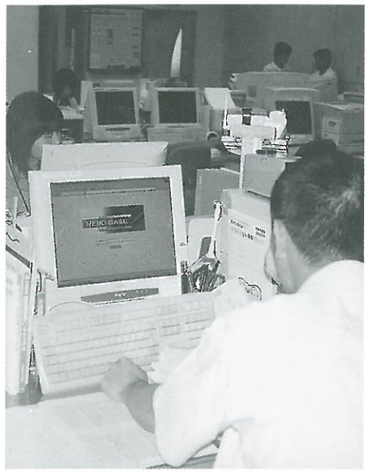
問　例規集（条例集）は現在加除式で一部の者にだけ配られているが、ホームページで公開することにより市民にも自由に見ることができるようにできないか伺いたい。

総務部長　覧は、今後経費面も含めて検討していきます。職員の配置等については、課内事務の見直し、及び各支所との協力体制により改善していきます。

企業誘致考はいかに

問　西予市は少子化・過疎化が進行しているが、それを防止するには若者定住を促進する必要がある。産業の誘致は西予市発展のための重要課題であるが、それに取り組む市長の考えを伺いたい。

市長　企業誘致については、デジタル家電など日本企業の力はすごいもんだと思います。しかし、知的産業が西予市に来るかということになると人材の面などで企業も来ないというのが実態だと思います。したがって、それ以外の隙間産業を誘致対象とすべきと思います。また、5町のふるさと会と連携をとって誘致を進めていきたい。



例規集は庁社内はパソコンでOK



シルバー西予とは一体何

山本　安男　議員

自主的な公益的な団体

女性専門外来の設置を

問　女性が生涯にわたる健康支援を推進する上から、女性専門外来の設置が各地で注目されている。「女性医師が女性を診る大切さ」に理解を高め、女性が心身共に安心して受診できる医療体制の、早期実現について伺いたい。

市長　女性の専門外来の設置に当たっては人的な問題、診療バランス、経営上の問題等があり今後の検討課題にしたいと考えています。今年6月から女性医師が野村病院に配属がありましたので希望者はご利用ください。

〈追加質問〉

問　内容面運営方法も理解できましたが、オービーシステムの内容仕様がすべてシルバー対応で可能であると考えます。オービーシステムの立ち上げ。一般社会的な就業難の中、時代に合わない方策だと思います。オービーの皆さんの優遇処置ともいわれているシステムをシルバー西予の組織へ共々に立ち上げて頂きたい。

市長　オービーシステムは一個の株式会社として機能していてシルバーとは趣が異なる。また雇用の場としての会社であり2分の1、市が株式を取得している準公的な関係であり理解して頂きたい。

生き甲斐への充実や、社会参加を希望する現役をリタイアされた高齢者に、臨時的短期的な仕事を与える、自主的な公益的な団体であります。合併前に三瓶町の社協で、事務所を創設しシルバー三瓶として実施されていました。合併協で「シルバー西予」と名称を改め、新たに西予市内全域に組織として位置づけ、説明会を行い現在会員募集中であります。質問にありました、宇和オービーシステムとの合流は不可能と思うが、個人が活動趣旨に賛同しての加入は可能です。



シルバー西予講習受講風景



林業の振興策はあるか

高性能機械の導入で対応

鍵原　芳和　議員

問　林業、木材産業は、長期に亘る価格の低迷と需要の伸び悩みの中で、林家経営意欲の減退、過疎と高齢化による担い手の減少などにより、管理の行き届かない森林や放置林の増加が懸念されている。市全域の森林整備を進めるには、引き続き林道作業道などの基盤整備が必要不可欠である。

市内全域の森林整備を進め優良林生産、経営の安定化のためにも国、県の支援事業を積極的に活用し基盤整備を高性能機械と組み合わせた、現行の単独事業を継続すべきと思うが、今後の中長期的な方策について伺いたい。

産業部長　当市の豊かな森林と水資源等公益的機能を将来に引き継いで行くためには、適正な維持管理が必要で、林業の活性化を推進する為の林道作業道などの充実はもとより、高性能機械の導入による、低コスト化が重要である。重機の運用については、機械使用規定等に基づき、引き続き第三セクター、株式会社ＦＣに委託し効率的な運用を図って参りたい。

長期的には西予市林材業振興会等と連携し産業振興方策について検討していきたい。

どうする職員の給与格差

問　合併協定では、その合併後5年をめどに格差の基準を統一し、是正を行うこととされているが、旧5町の高低の格差は4.4ポイントと大きい。労働基本権の制約、良好な労使関係の維持、職員の士気、生活への配慮、行政サービスの質の向上、現下の厳しい財政事情や市民の世論の動向など、諸事情を総合的に勘案され、適切な対処をめてまいります。



林内作業道

委員会



現地視察状況

審査報告

総務

国県の陳情で財政難の解消を

総務常任委員会は、5日間に渡り委員と関係部課長の出席を得て、16年度予算の細部に渡る内容説明や現地調査を実施して、慎重に審議を行いました。紙面の都合で概要のみ報告致します。尚最終日には、市長・助役・収入役・教育長の出席を得て総括的な審議を行いました。

◇予算計上の際に、各総合支所の要求を取りまとめた、内容が整理されていないところが見受けられた為、系統的整理を要求した。

◇厳しい財政事情であることから、委託料、負担金等の項目ごとに、内容や性質を良く精査し、民間の競争原理を生かし、低コストで最大の効果が得られる事務処理を要求した。

◇今回の審査で補助金、委託料、負担金が事業内容等から旧町間調整が出来ていないと判断できるところがあり、いつ頃までに平準化に向けた調整を行うのか意見を求めた。

◇財政難解消のために、国、県等への陳情など最大限の努力で財源確保に努められるよう要望した。

一方各課の予算審査では、コミュニティー関係補助金の調整、交通弱者の足の確保のために、効率的で総合的な対応策について、財政シュミレーションの再検討、納税収納率の向上等々、合併初年度でもあり、諸課題山積しているが、効率的な行財政運営を要望した。

◇現地調査では、今年度実施予定の旧町での、大型事業について現状を視察した。特に17年度から実施予定の城川西小学校建築は、今年度基本設計のため、木造で建築された明浜中学校体育館、現城川西小学校の現状を調査した。

厚生

電子カルテで待ち時間ゼロを

平成16年度西予市第一回定例会で、当委員会に付託されました案件について6月28日から30日までの3日間、関係部、課長及び主幹の出席の元慎重に審議を致しました。

【市民生活課】

条例1件でこの条例は地方税法の改正に伴い、固定資産の長期譲渡と短期譲渡に係る保険税の1部を改正する条例です。原案可決であります。

【一般会計】

○出産祝い金（一人につき10万円）が支給されます。

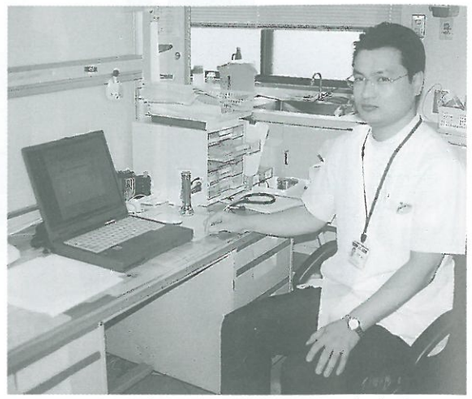
○各診療所への繰り出し金

1億4千8百64万円

診療所については今後のあり方について検討する必要があるという認識に立ちました。

○今後ゴミの減量化、節水対策、職員の人件費の適正化等を図る必要があるという活発な意見がありました。

3つの委員会


土居診療所は電子カルテを実践

厚生

【保健福祉課】

◎敬老会のあり方を地域で再検討する必要があるとの意見がありました。

◎生活保護費の精査、適正運用についての意見がありました。

【特別会計】

●西予市授産場については、この施設は三瓶町にある手袋製造所で、生活保護受給者の就労施設であると説明がありました。

●国民健康保険の保険証をカード化して欲しいと要望があり、再度検討するとの回答がありました。

●介護保険の保険料について、県内対比状況や施設の民営化について質疑がありました。

●病院のカルテを、電子カルテにしてはどうかという質問に対し、検討するとの答弁がありました。

●病院内の待ち時間について厳しい意見がありました。

●患者に対する心のケアについては、さらに勉強してサービスの向上に勤めるとの説明がありました。

●老人保健施設については、今後ますます運営努力をして欲しいとの要望がありました。

以上当委員会に付託されました全議案につきまして、慎重に審査いたしました結果、原案通り可決致しました。

産業建設

農林水産補助前年対比80％

産業建設常任委員会は、6月28日からから7月2日までの5日間、平成16年度西予市一般会計予算、及び特別会計予算について審議を行いました。今回は旧町からの持込み予算の色合いの濃い予算編成でありました。以下総括的に討議を行いました点についてご報告いたします。

■非常に関心の高い項目であります、農林水産業団体に対する補助金については、ほぼ一律前年度対比80％で予算計上されています。財政状況の厳しい折、来年度以降は5町配分を平準化するのではなく、必要・不必要な補助金を精査し、地域の特色にあった補助金のあり方を検討していくこととしています。

■西予市の基幹産業である農業、その活性化を図るために創設された「中山間地域等直接支払い制度補助金が廃止・縮小の方向で検討されていることについて、制度が廃止にとなった場合、市単独で既存の対応をすることは財政的に困難な状況であることから、国に対し継続を強く要望していくことと致しました。

■市発注工事の地元業者への配慮については、公共工事のあり方の問題もあり、企業体として更なる努力をして頂くと共に、市としてもできる範囲で最大限の配慮を持って取り組みたいとの理事者の回答がありました。

■宇和、野村町において現在公共下水道施設の工事が進められております。供用開始後におけるこれら下水道使用料金の調整については、受益者負担の原則を踏まえた上で、慎重な審議を行う必要があることから、委員会としても、積極的に調査研究を行なっていく事としました。以上第一回定例会における委員会審査を行い、当委員会は、本格的に始動しました。今後更なる皆様の負託に答えるため、委員会一同一生懸命取り組んで参ります。


産業建設常任委員会研修

新生西予市は 大型予算が目白押し



城川町「温泉保養地中核施設」17年９月完成予定



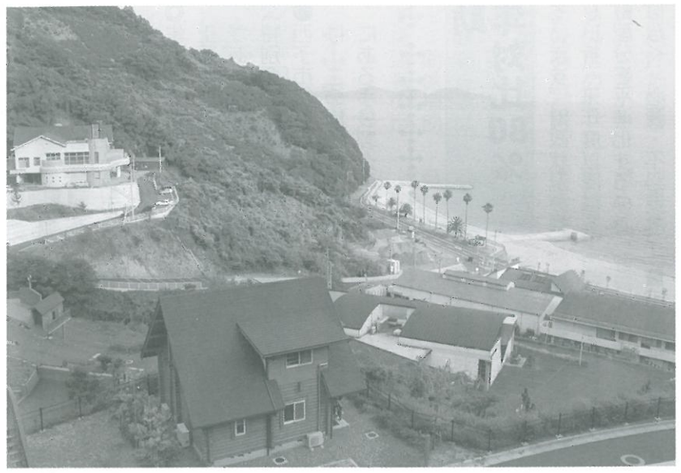
野村町「乙亥の里構想」17年３月完成予定



大改装が行われる三瓶町「ホテル朝屋」



野村町「エコセンター」建設予定地



施設が充実する明浜町「シーサイド・サンパーク」

今、抱負を語る

先ず雇用対策を

二宮　元



西予市誕生後、初めての定例議会も終わり、本予算が成立し、本格的なスタートとなり、それぞれ各町からの提案されていた、課題や要望が解消されていくものと思っております。しかしながら複雑、多様化する社会情勢の中で、特に周辺地域では、少子高齢化が加速しているし、公共事業の大幅な削減や、野村町では現存していた企業が次々に撤退しており、働く場所が激減しており、かって無い深刻な問題となっております。安心して生活が出来る職場作りこそ最も大きな課題と思っております。企業誘致は今まで繰り返し進めていましたが田舎にはきてくれません。視点を変え逆発想で田舎だからこそ、必要な企業もあるのでは無いか。そして農家は高齢者が増えており、生産力も落ち、荒廃する農地も増加しております。農地の有効活用をどう進めればよいのか、いろいろ課題は山積しておりますが、特に周辺地域の隅々まで、光の届くようパイプ役を果して参りたいと思っております。

リレー議員紹介



小異を捨て大同につく

岡田　周三

西予市初代議員に当選させて頂きまして誠にありがとうございました。第一回の定例会を終えて議会運営の違いに少し戸惑っています。西予市誕生においては、合併協議会において五町の各委員さん達の「小異を捨て大同につく」の精神があってこそ、モデル的な合併が出来たと思います。しかしながら16年度予算編成におきましては早くも財政難と言われております。この様な時こそ違った環境で育った五町の市民が、おたがいの違いを認め合い、尊重し合ってこそ、この難局を突破出来るのではないかと思います。今後は、行政と議会が協力して財政改革に取り組み、活力ある西予市を作って行く様に努力したいと思います。



環境と歴史と文化の町づくり

坂本　隆重

明るい地域作りを目指し、自然を大事にした環境と歴史と文化の町づくり、活力のある農林水産業の振興に努め、地産地消と食の安全安心を目標に、地域に根ざした特産品の開発と、地場産業の育成に努める。また高度情報化社会に対応できる環境整備と人づくりに努める。福祉の面では、地域で支える福祉社会実現のため「あんしんの家（多機能デイサービス）」づくり、医療においては、西予市の市立病院の充実を図ると共に、救急医療の充実、最先端技術を導入した医療機器、検査機器の導入により、地域の医療との情報交換を行い「地域医療完結型」の医療体制の確立を図る。尚高速道路が宇和まで延伸したことで、物流の構造が変わったことも重視すべきである。